

(現状評価 凡例) A:取り組んでいる B:あまり出来ていない C:出来ていない

スマートライフ推進協創プロジェクトにおける委員からの意見及び対応状況

	意見	対応状況	現状評価
1	<p>これまでの<u>成果を見える化</u>し、三重県の<u>売りにしていただきたい</u>。自然環境が豊かな特徴を生かして、<u>公の施設の電力を再生可能エネルギーでまかなう</u>などの取組をしてはどうか。</p>	<p>「<u>三重県新エネルギービジョン</u>」の中間評価を実施する中で、これまでの取組の成果や課題について検証します。また、<u>11月21日(土)に、みえスマートライフ推進協議会全体会を開催</u>して、これまでの取組事例を紹介する中で、成果や課題を明らかにしたいと考えています。</p> <p>公の施設の電力を再生可能エネルギーでまかなうことについては、これまでも県施設(伊勢庁舎、伊賀庁舎、総合博物館等)への太陽光発電の導入を進めてきましたが、さらに平成26年度から「<u>再生可能エネルギー等導入推進基金事業</u>」により、避難所等として指定された県立高校などに太陽光発電と蓄電池の導入に取り組んでいます。</p> <p>平成26年度末時点での県施設への太陽光発電の導入量は、1,222kWです。</p>	B
2	<p>県内各地でスマートライフの取組が展開されているが、<u>実施地域や事業内容を絞って集中的に実施したほうが、事業効果やPR効果があがる</u>のではないかと考えています。</p>	<p>これまで、桑名地域(HEMS)、熊野地域(木質バイオマス、マイクロ水力発電)、鳥羽市答志島(小型モビリティ)の3地域において、テーマを絞って取り組んできました。</p> <p>今後は、地域の特性を生かした新エネルギーの導入を、地域課題の解決に結びつけるなど、<u>まちづくりと一体となっていく意欲のある地域において、モデル地域での先導的な取組を水平展開できるように検討したい</u>と考えています。</p> <p>また、これまでの取組の成果等のPRを行うため、11月に開催される「みえリーディング産業展2015」などの場を活用し、効果的な情報発信を実施することとしています。</p>	B

	意見	対応状況	現状評価
3	<p>県外から見て、三重県のスマートライフに関する取組の印象はまだ薄い。伊勢市では観光客向けにEVバスを走らせているが、<u>県外からの観光客を対象とする取組をもっと検討してはどうか。</u></p>	<p>来年5月に伊勢志摩サミットが開催され、県外からの観光客の増加が期待できることから、今年度も引き続きEVバスや小型EV（コムス）で伊勢市を周遊するスタンプラリーを実施することとしています。</p> <p>また、<u>伊勢市における取組の成果と課題を整理し、取組の成果をPRすることで、他地域に水平展開できないか検討したいと考えています。</u></p>	B
4	<p>スマートライフの取組は、過疎地域における産業や雇用の創出につながるため、<u>木質バイオマスなど新エネルギーの取組を進める地方自治体を支援していただきたい。</u></p>	<p>市町や地域コミュニティ単位で取り組む、新エネルギーや未利用エネルギー等の地域資源を活用したまちづくり、地域づくりを推進するため、「<u>新エネルギー等まちづくり促進事業</u>」により、まちづくりに関する計画策定、事業実現可能性調査、社会モデル実証に必要な費用の一部を補助しています。</p> <p>平成24年度に事業を開始して以来、これまで南伊勢町や鳥羽市など7件の補助を実施していますが、<u>過疎地域も含め、今後も引き続き補助を実施することにより、市町等の取組を支援していきます。</u></p>	A
5	<p>多くのプロジェクトが立ち上がってきたが、事業の達成度合いがそれぞれ異なるので、<u>全体の進捗状況を把握してはどうか。</u>また、これまでの取組を踏まえて、<u>今後どのようなコンセプトでスマートライフの取組を展開していくのか、整理する必要がある。</u></p>	<p><u>「三重県新エネルギービジョン」の中間評価を実施する中で、これまでの取組の進捗状況を把握するとともに、成果と課題について整理します。</u></p> <p>また、今後の取組のコンセプトや方向性については、<u>中間評価を踏まえて改定する「三重県新エネルギービジョン」において明らかにしたいと考えています。</u></p>	B